

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校玉城わかば学園)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○子どもたちが自信を持ち、社会参画できる力を育む学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) ○よく学び、よく遊び、社会参画を目指して主体的に取り組む子ども ○自他の命を大切にし、互いを尊重しながらいきいきと活動する子ども
	ありたい教職員の姿 ○特別支援教育に関する専門性の向上に努め、保護者・地域・関係機関と連携・協働して子どものニーズや特性に応じた教育活動や地域支援を推進できる教職員 ○高い人権感覚や安全意識を持ち、児童生徒・保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> ○卒業後に必要な、自立や社会参画につながる確かな力を育ててほしい。</p> <p><保護者> ○子どもたち一人ひとりの育った背景を理解し、個に応じた教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。</p> <p><地域> ○地域における特別支援教育の充実と推進のため、常にセンター的機能を発揮してほしい。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> ○子どもたちを理解し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。 ○子どもたちの一番の理解者でいてほしい。</p> <p><学校等の各機関> ○特別な支援が必要な子どもたちへの指導について、支援、助言、情報発信をしてほしい。</p>	<p><保護者> ○学校あるいは関係機関と連携し、密接な協力関係をもって、家庭における指導を進めてほしい。</p> <p><学校等の各機関> ○特別な支援が必要な子どもたちへの全校的な支援体制を確立してほしい。 ○指導する教職員の専門性を向上させ、発達障がいを含む知的障がいのある児童生徒の指導を充実してほしい。</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none">・「学校のウェルビーイング」に社会参画の視点を正式に追記し、学校教育目標との整合性を図ってみてはどうか。・子どもによっては話すことが苦手な子どもがいるので、連絡帳・学級通信・デジタル配信を積極的に活用し、保護者への学校生活の様子や情報をより丁寧に提供してほしい。それが、学校と家庭との信頼関係につながると考える。・教育課程が整理された。学びが1+1=2になるだけでなく、学びが横にも広がり1+1が3や4となるような教育活動の充実を期待している。・児童生徒の自己肯定感を育む教育をさらに推進してほしい。・令和8年度行動計画にある度会特別支援学校児童生徒の合同学習(交流)が形だけで終わるのではなく、令和9年度において両教育部門の児童生徒と一緒に学ぶことができるような学習へつながってほしい。	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校のウェルビーイング」に社会参画の視点を明記し、学校教育目標との整合性を図りつつ、一貫性のある目標体系を確立する。また、学校の中核となる教職員との対話を充実させ、「三重県型マネジメントシステム」を有効活用し「めざす学校像の姿」の実現を図る。 ・連絡帳やデジタル配信等を活用して保護者へ学校生活の様子を丁寧に発信し、信頼関係のさらなる強化を図る。 ・年間指導計画に基づき、「単元年間シート」を試行活用した指導内容の見える化と著作教科書を活用した実践を推進する。 ・人権カリキュラムを活用した人権学習に取り組む。引き続き、自己肯定感を育む教育を推進する。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和9年度の設置を見据え、両校の教職員による学校運営の調整、児童生徒の合同学習および施設見学会等の計画を具体化し、年度後半を目途に実施する。 ・地域に開かれた学校づくりと、児童生徒の社会参画を推進する。

3 中長期的な重点目標

上記の現状と課題を踏まえ、次の点を中長期的な重点目標として位置付ける。

教育活動	<p><1 学習指導の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「著作教科書(☆本)」を効果的に活用した指導を推進するとともに、教職員間で具体的な授業実践を共有し、活用の定着と授業改善に努める。 ○新教育課程および時間割に基づく確実な教育を推進し、児童生徒の実態に応じた教科別の学習内容の充実を図る。 <p><2 自立と社会参画を見据えた教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ○組織的・計画的なキャリア教育を推進するため、各学部の進路指導のつながりや学習内容の系統性を確認するとともに、教職員および保護者の理解を深める。学校と保護者が一体となって児童生徒のキャリア形成を支える連携体制を強化する。 ○地域とのつながりを意識した「交流及び合同学習」を推進する。間接交流の実現に向け、ICT機器の活用や作品展示交流について検討し、継続的・計画的な取組を進める。 <p><3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が自分の努力や成長を実感できるよう、実施する行事において達成感を重視した具体的目標の設定と丁寧な振り返りを行う。特に学校全体行事である「わかば祭」では、児童生徒が主体的に役割を担い、多様な仲間と協同する機会を創出できるような実施計画とする。 <p><4 人権教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権カリキュラムに基づき、各教科・領域等における体系的な指導を確実に実施する。 ○児童生徒が自他の人権を尊重し、日常生活の中で適切な意思表示や相談ができる実践的行動力を育成する。
学校運営等	<p><1 児童生徒の安全・安心の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災ハンドブック等を活用した防災教育を推進し、児童生徒の危機管理意識を高める。 ○緊急時対応訓練を定期的実施し、安全管理体制の強化と教職員の対応力向上を図る。 <p><2 特別支援学校センター的機能の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のニーズに応じた公開研修会の開催や、特別支援教育コーディネーターによる巡回相談等を通じ、南勢地域における特別支援教育の推進に寄与する。 ○校内支援体制の検証と自立活動の充実を図り、セラピスト等の専門家との連携による指導助言体制のあり方を検討していく。 <p><3 学びを支える教育環境の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ○不祥事を未然に防ぐために、ミーティングやコンプライアンス研修を実施し、教職員の

	<p>気づきをもとに互いに意見しあえる職場環境を構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士で声をかけ合い、対話の中から生まれた意見などを反映させながら働き方改革をさらに推し進めていく。 ○保護者アンケート等の結果を学校運営に反映させる。また、保護者学習会を機能的に運営することで、学校と保護者間の双方向のコミュニケーションを活性化させる。 ○ホームページ等を活用し適切なタイミングで情報発信を行う。 ○肢体不自由教育部門の円滑な設置に向けて、度会特別支援学校との共同業務をより強化する。特に管理職と主事部、わかばプロジェクト委員会が連携を図り、両校の児童生徒による合同学習を計画的に実施することで、相互理解と教育実践の共有を図り、ハード・ソフト両面からの整備を加速化させる。
--	---

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動 令和8年度は「学習指導の充実」を最重点取組として位置付ける。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習指導の充実	<p><1 学習指導の充実></p> <p>(1)「著作教科書(☆本)」を活用した教育の実践</p> <p>(2)新教育課程、時間割に基づく教育の推進</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知的障がい教育を進めるうえで必要な「学習指導要領における段階」の考え方や著作教科書(☆本)に見る段階別の傾向について、新転任者向け研修会を実施する。(4月早々 1回) ○新教育課程、時間割での教育実践の進捗状況を確認する。(確認会 3回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習指導要領における段階」の考え方や著作教科書(☆本)について理解が進んだと回答した参加者の割合(80%以上) 	(年度末および適宜記載)	◎ ※
2 自立と社会参画を見据えた教育の充実	<p><2 自立と社会参画を見据えた教育の充実></p> <p>(1)キャリア教育の推進</p> <p>(2)交流及び共同学習の推進</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高等部2年生の現場実習において、実習終了後に実習先からの評価や助言を基に、実習の振り返りを行い、次の実習に向けた課題や目標を整理する。(1回) ○間接交流の実施(学校全体で25回以上) 居住地校交流(小学部 27 名、中学部 22 名) ○担当部署において、間接交流後の振り返りを行い、次年度以降の交流の在り方について学校全体で共通理解を図る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1回目の現場実習で示された課題を意識し、2回目の実習で行動面の改善が見られた高等部2年生の生徒の割合(70%以上) 		◎ ※

3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進	<p><3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進> (1)児童生徒の達成感を重視した行事(わかば祭)の計画と実施 【活動指標】 ○わかば祭の事前学習において、児童生徒が達成感を味わえる具体的な役割・目標評価の設定(1回) ○わかば祭後の目標の評価及び振り返りを実施(1回) ○わかば祭後、保護者にアンケートを実施(1回) 【成果指標】 ○実施後の振り返りで「自分の当番をがんばった」と答えた小学部児童の割合(80%以上) ○実施後の感想やアンケートで「自分の力を出し切った」と達成感を持つことができた中学部高等部生徒の割合(90%以上) ○実施後のアンケートで「学校の取組が理解できた」と回答した保護者地域の割合(80%以上)</p>		※
4 人権教育の推進	<p><4 人権教育の推進> (1)人権カリキュラムに基づく教育実践 (2)実践的行動を促す教育実践 【活動指標】 ○人権カリキュラムに基づく授業実践 各学部(学級において1回以上実施) ○高等部において「実践行動力をみにつける」学習を発達段階に応じて実施(1回以上) 【成果指標】 ○高等部生徒において困ったときやおかしいと感じたときにだれかに「相談する」と回答した生徒の割合(80%以上)</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等 令和8年度は「特別支援学校センター的機能の充実」を最重点取組として位置付ける。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
5 児童生徒の安全安心の確保	<p><5 児童生徒の安全安心の確保> (1)防災教育等の推進 【活動指標】 ○災害用伝言ダイヤル体験の実施(2回) ○引き渡し訓練会の実施(1回) ○災害時や長期欠席児童生徒に備えたオンライン学習環境の整備(できる限り早期に実施) 【成果指標】 ○災害用伝言ダイヤル体験の参加率 保護者(80%以上) 教職員(90%以上)</p>	(年度末および適宜記載)	
6 特別支援学校センター的機能の充実	<p><6 特別支援学校センター的機能の充実> (1)南勢地域における特別支援教育の推進 (2)自立活動の充実 (3)校内支援の充実</p>		◎

<p>7 学びを支える教育環境の整備</p>	<p>【活動指標】 ○夏季公開研修会の実施(1回) ○セラピストによる校内支援の実施(のべ 100 回以上) ○「個別的教育支援計画」の作成に向けた説明会の実施(4月早々 1回) ○知的障がい児童生徒支援の基本として「セルフコントロール」研修会の実施(1回)</p> <p>【成果指標】 ○夏季公開研修会の実施後のアンケートにおいて「玉城わかば学園の教育内容が理解できた」と回答した参加者の割合(80%以上) ○個別的教育支援計画の作成説明会において、作成のポイントが理解できたと回答した教職員の割合(80%以上) ○「セルフコントロール」の研修会において、研修内容が「教育実践につながる」と回答した教職員の割合(80%以上)</p> <p><7 学びを支える教育環境の整備> (1)教職員の資質向上及び不祥事の根絶 (2)教職員の働き方改革を推進 (3)保護者の学校参画を促進 (4)地域連携の推進 (5)円滑な肢体不自由教育部門設置</p> <p>【活動指標】 ○不祥事根絶研修としてミーティング及びコンプライアンス研修の実施(研修8回 ミーティング2回) ○転任者向け「わかばクレドカード」による不祥事防止啓発(4月早々 1回) ○学校経営の中核となる教職員との対話(1回) ※三重県型マネジメントシステムの活用 ○教職員満足度調査の実施(1回) ○設定した日(わかばフライデー)に定時退校した教職員の割合(90%以上) ○自主的に定時退校する「愛タイムデー」を実施した教職員の割合(90%以上) ○設定した休養日を実施した部活動の割合(100%) ○放課後に開催した委員会・職員会議において60分以内に終了した会議の割合(90%以上) ○授業参観後の保護者アンケートの実施(2回) ○キャリア形成を意識した保護者学習会の実施(1回) ○保護者アンケート(学校評価)の実施(1回) ○学校ホームページ等からの発信(10回) ○地域のイベント等への参加(1回) ○地域に密着した授業実践の実施(中学部高等部 1回以上) ○肢体不自由教育部門設置の説明リーフレットの作成 ○度会特別支援学校との合同学習の実施(小学部、中学部、高等部 各1回) ○肢体不自由教育にかかる研修会へ自主的に参加した教職員の割合(100%) ※対話による受講奨励へ反映</p>		<p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
------------------------	--	--	---

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケート(学校評価)において、「子どもが安心して学校へ通っている」と回答した保護者の割合(80%以上) ○教職員満足度調査において、「自分の仕事にやりがいを持っている」と回答した教職員の割合(80%以上) ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数(0人/90人) ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員ののべ人数(0人/90人) ○1人当たりの月平均時間外在校等時間(30時間以下 0人/90人) ○1人当たりの年間休暇取得日数(15日以上 90人/90人) 		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	(年度末に記載)
----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	(年度末に記載)
<p>学校運営についての改善策</p>	(年度末に記載)